



消費者物価の再構築と、新しいビジネススタンダード

令和7年4月13日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

現状のインフレーションと消費者物価の再編は、新たな購買基準への転換をすべての現実において有するものである。また海外との価格格差や為替基準は、それら経済のグローバリズムとともに、経済の統一性を有するものである。

これらはすべての企業に対して新たな影響を与えるものであり、これら物価の再編は経済から始まったと考えることは可能なのである。

これらは企業の価値観の転換が存在し、グローバル基準という新しい利益性における企業経営への転換が存在することは正しいと考える。これら新しい物価への転換は経済の実像の大きな変化が背後に存在するものである。これらは企業の新たな利益構造を有するのである。

これらはグローバル経済の統一と新たな技術における企業への要求などが、これら高い利益性を企業経営において要求することでそれらを価格へ転嫁する必要があるためであると考えられる。

しかし今後グローバル経済の統一性が未来に存在するなら、今日各国における物価格差が存在する事に対して、それらの統一市場への転換や、統一基準におけるグローバル経済の運営などが与えられるものであり、それらがさらなる影響を経済と企業へ与えることは考えられるものである。

これらは経済が自由貿易体制とともに、相互依存性を有し、先端産業における独占やそれら産業への資本の流入などにおいて、今日の経済を牽引することは真実なのである。

これらは社会の再編と再構築が今日存在するものであり、それらの背後は経済における新しい現実への転換であることは正しいのである。

これらは国際金融資本が経済の背後にあることともに、グローバリゼーションと世界経済の転換は今後その新たな技術への転換とともに存在することは容易の予測するものである。